

平成31年4月 定例記者会見（報告）

1 日 時 平成31年4月22日（月）午後1時～午後1時20分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>朝日新聞、河北新報、毎日新聞、山形新聞、米澤新聞社、読売新聞、
置賜日報デジタル

<市> 市長、秘書広報課長、担当者

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) 中心商店街活性化への新たな対応をどう打ち出しますか。
- (2) その他

5 内 容

○秘書広報課長

それでは、定刻となりましたので、平成31年4月の定例記者会見を始めさせていただきます。初めに、市長から質問に答えさせていただきます。

○市長

よろしく申し上げます。この度は、「中心商店街活性化への新たな対応をどう打ち出しますか」という質問を頂戴しております。この背景は、大沼米沢店が閉店するという方向性が出ましたので、そういったことでのご質問だろうと思います。大沼閉店につきましては、中心部の商業地域における核として賑わいをもたらしてくれたと思っております。その大沼が閉店するという事は本市にとっても、中心商店街にとっても非常に大きな痛手だと思っております。あの周辺には大型商業施設が三つも建っておりましたが、この背景にはその後のモータリゼーションによって郊外型に商業施設が展開されたということもあり、街中の人の賑わいが少なくなっていったということや、インターネット販売などの普及で、購買の在り方というものが変わってきたということも大きな要因であったのだろうと思っております。事実、大沼の記者会見の時も、そのような話があった訳であります。そういったことで非常に残念だなという思いです。

市としましては、今日までも商店街への集客を高めるため、商店街自らが中心となり、商店街の活性化を図る取組に対して支援をしてきているところであります。具体的に言いますと「まちなかふらっとランチマップ」の作成、「まちバル」、「一店舗一
名物開発事業」、「まちなかゼミナール」、「中心商店街未来創造事業」などに支援をし

て参りました。また、創業を促して、空き店舗の解消と店舗数の増加を図ってきましたが、そういったことについても、「創業塾」の開催や「創業支援補助金」、「商業活性化拠点整備事業」などを通して支援を行ってきた訳であります。しかし、なかなか功を奏してこなかったのだらうと思っております。さらに、中心市街地という面から言いますと、中心市街地の活性化は行政のみならず民間活力が重要でありますので、引き続き民間の動きについても、関係機関と連携を図りながら、行政として協力できるものについては積極的に支援を行うことで、今後の中心市街地の活力につなげていきたいと考えているところであります。大沼の土地や建物についても民間への売却を予定しているとのことでありますので、今後の状況を見守りたいと思っております。

一つの明るい材料としましては、平和通りにフードコート式の屋台村「おもしろな横丁」が4月26日にオープンする予定となっております。アイデアを持った若い人たちが創業しやすく、街中で新たな人の流れを作り出すことを目的としており、このような民間の活力も非常に重要だと考えておりますので、民間の動きにも注意しながら商業地域の活性化を図っていききたい。現在のところこのように考えております。

○秘書広報課長

質問に対する市長からの回答は以上となります。質疑がありましたら幹事社を中心によりしくお願いします。

○幹事社

はい。今の内容に関連して、質疑のある方はいらっしゃいますでしょうか。

○記者

ポポロの跡地活用について、連絡などは来ていますか。

○市長

いえ、まだ正式な話は頂いておりません。更地になっていろいろな話はあるのですが、あくまでも噂の領域を出ませんので、この場での回答は差し控えさせていただきたいと思っております。

○記者

大沼撤退後について、大沼がなくなると本当に良くないなと思っているのですが、民間のコンサルとか住民パワーによるプロジェクトとか、そのようなプロジェクトチームの立ち上げについては考えていませんか。

○市長

プロジェクトチームというのがあるのですか。

○記者

いえ、そういったものがないので市が呼び掛けてということですよ。

○市長

先ほども申し上げましたように、そのようなものについても、注視をしていかなければならないと考えております。

○記者

米沢信用金庫の裏側、それから今のポポロの部分、今度は大沼ということになってくると、あの周辺には空間が多くなってきます。そうすると中心商店街といえるのかということになってくるとと思います。

○市長

中心商店街と言いますけれども、現在商店の数ほどの程度あるのでしょうか。先ほど言いましたように、米沢だけでなく地方都市においては、機能的なものが多くなっているという傾向が出ております。ただ、商業地区としての今後の土地利用というものは、民間との動きも出てきた場合にはしっかりと連携を取っていかなければならないのかなと思っております。

○記者

ポポロについて、具体的な話は来ていないとのことでしたが、将来的には開発を前提に土地利用をすると聞いているのですか。それも未定なのですか。

○市長

具体的にどうするかということではありませんが、いろいろな人の話はお聞きしております。当然、所有者の方がどのような土地利用をされていくかということについては、お考えになっているのではないかなと理解はしております。

○記者

要するに市長自身はまだ分からない訳ですね。

○市長

はい。まだ具体的な話は頂いておりません。

○幹事社

一つ目の回答について質問がなければ、その他の質問をお願いいたします。

○記者

昨日終わりました市議会議員選挙の質問です。まず、今回の結果をどのように受け止められましたか。

○市長

はい。これは有権者の判断だとしか言いようがないのかなと思っております。

○記者

今回、投票率が下がって、かろうじて五割台でしたが、投票率の低下減少は続いていくと思います。12月に市長自身も選挙を控えておりますが、どのように見ておりましたか。

○市長

私も4年前の市長選挙の際、お宅を訪ねたりしている時に感じたことがあります。高齢化社会が進展して、なかなか投票所まで行けない高齢者の方々がすごく多くなってきていると思います。今後、高齢化が進んでいくことによって、投票に行きたくても行けないという人が増えていくと思います。例えば、家族など車を運転される方がそこにいらっしゃれば投票所に行くことは可能だと思っておりますが、高齢者の一

人暮らし、二人暮らし世帯が増えてきているというのも現実であります。高齢化社会が進展し、なかなか投票所に行けないという方々が増えてきているというのが、投票率が低下している一つの原因なのかなと思っております。

また、詳しく分析をしてみないと分かりませんが、もう一つは政治離れというのでしょうか。例えば、前の県議会議員選挙もそうでありましたが、今回の統一地方選挙を見ても、無投票や定数に達しない部分が相当あったということが報道されていますので、政治に対する関心が希薄になってきている部分もあるのかなと思っております。

この二つの要因が投票率を低下させている大きな要因なのだろうと思っております。投票率を上げるということは大切なことですので、今後対策を考えていかないと投票率がどんどん下がっていくのではないかと今回の選挙では確信いたしました。

○記者

危惧なさっているということですね。

○市長

はい。危惧しております。

○記者

今回の選挙では市議会議員の成員は大幅には変わりませんでしたが、若干変わりました。市議会議員の新しい構成メンバーで、市長のこれからの市政に関して、影響するような点などはありますか。

○市長

議員の皆さんも常々お話しされている行政側とは是々非々の議論を尽くしてやっていくという姿勢に変わりはないと思っております。今後、新しいメンバーでの議会構成がなされていくと思いますが、議会と行政の全体的な流れについては、現在もこれからも変わらないものと思っております。

○記者

今回の市議会議員選挙について、市長は個人的にマイクを握ったりということはしたのでしょうか。

○市長

いえ、一切しておりません。ただ、市長の為書が欲しいという方にはお渡しさせていただきました。

○記者

昨日は議長のところいらっしゃいましたよね。

○市長

はい。全部は回りませんが、祝意は申し上げたところでした。

○記者

動きはそのくらいでしょうか。

○市長

そうですね。個人演説会等の要請もだいぶきておりましたが、公務との重複や一人の立候補者だけに行くのも良くないだろうということもあったものですから、演説等
は行いませんでした。

○記者

それは市長選の戦略とかそういうことではないのですね。

○市長

はい、違います。

○幹事社

他にいかがでしょうか。

○記者

はい。市議選の開票に係る時間についてです。前回もそうでしたが、米沢市は確定
が遅いということで、原因や今後の対策などはありますか。

○市長

他の自治体はどうか分かりませんが、中継を見てみますと、特に川西町など、
有権者数の少ないところは比較的早く確定しております。米沢市の開票がいつも遅い
原因はなんなのかと、私も担当に聞いております。一つは候補者数も多いということ
もありますが、票の確認に手間がかかるということとは言えるのではないかと思ってお
ります。それは公正、厳正を期すという点では当然なのでしょうが、その他の部分に
ついては、それほど時間は変わらないとのことでした。

○秘書広報課長

立会人も含めた票の確認に時間を要しているというのが現実かなと思います。票の
流れそのものはスムーズにいつていると思いますし、もう少し早めに確定を出せても
おかしくなかったのかなと昨日は思ったところでした。

○記者

例えば、規模の大きい山形市と比べたらどうでしょうか。

○秘書広報課長

山形市は早かったですね。

○市長

規模的に言えば山形市の有権者数は米沢市の倍以上ありますから、私も詳しい原因
は分かりませんが、今後、どのような流れで行っているのかということについては、
勉強させていただきたいなと思っております。

○記者

ずっと開票所にいましたが、いろいろ感じるが多かったです。なんのトラブル
もなく行っているのにあれだけ遅くなるということは、問題を内包しているのだと思
います。選挙管理委員会の方を含めて頑張っておられるのは分かりますが、疑問点を
複数感じましたので、是非、市長としても実態を把握していただきたいと思いま
す。やはり開票の確定まで一番遅いというのは有権者にとっても良くないと思いま
すの

で、何の問題もなくスムーズに行ってこんなに遅いというのは、どこかに課題があると思いますので、是非、検討してください。

○市長

そうですね。そこは今お話ししたように、確定までの流れについてももう少しどうできるのか、山形市との比較も含めまして、私自身も勉強させてもらいたいと思います。

○記者

投票率に関連して質問です。高齢化も進んでいると同時に、政治に対する意識が希薄になってきているのではないかというお話でしたが、その背景はどのようにお考えですか。

○市長

先ほども申しあげましたように、無投票のところもだいぶ増えてきている訳ですよ。あとは定員に達していないところもあり、立候補される方も少なくなっている訳です。そういったことが一つの要因としてあるのかなと思っております。

○記者

政治に対する意識の面ではどうでしょうか。

○市長

そういったことで意識も薄らいでいるのではないのでしょうか。政治に対する関心もあって多く立候補されれば、その分いろいろな関係も出てきますから、投票に行かなければという意識は上昇すると思うのです。そういったことが希薄になってきているなと思っております。ただ、一般的には関心を持って投票をしていただいている方が多い訳ですので、ごく一部の方なのだろうとは思いますが。

○記者

投票所に行きたいけど行けなくなっている高齢者もいるとおっしゃっていましたが、今後、歳を取っていくと益々増えてきますよね。これについて行政は対策を行うことができるのですか。考えたことはあるのでしょうか。

○市長

いえ、直接どうできるということはないのですが、例えば、病院に入院されている方だと、病院の中で投票はできる訳です。ただ、在宅で医療や介護を受けている方については、家族がいたとしても車に乗ることができないということもあると思います。これについてどのように対策を行っていくのかは、単に米沢市だけの問題ではないと思いますので、投票の在り方について検討をしていかないと、投票率は益々低下してくのだろうという危惧の念は持っております。

○幹事社

ありがとうございます。その他について、よろしいでしょうか。

○秘書広報課長

ないようですので、これで平成31年4月の定例記者会見を終了いたします。